

新生鹿児島市合併記念シンポジウム ～さらに飛躍する県都の創造を目指して～ (概要記録)

日 時 平成16年11月20日(土) 13時～15時50分
会 場 城山観光ホテル エメラルドホール
主 催 鹿児島市、南日本新聞社

市長あいさつ ・鹿児島市長 赤崎義則

11月1日に、鹿児島市と吉田町・桜島町・喜入町・松元町・郡山町の1市5町がめでたく合併し、力強い第一歩を踏みだしました。現在「平成の合併」という形で全国的に市町村の合併が進められ、11月1日には、全国で20の市や町の合併が行われました。市町村合併の必要性や背景は、現在進展しつつある地方分権の受け皿としての行政体制の強化であり、将来さらに厳しくなっていくであろう地方財政への対応であると考えています。今回合併した1市5町は、すでにこれまで生活圏が一体化しており、当然の帰結として合併が進められ、なるべくしてなった大変めでたい合併であると思います。

しかしながら、明治以来5町は個々の自治体として自主的に発展してきた歴史と伝統を持ち、それぞれ誇りと愛着を持ち運営してきた地方自治体です。合併した以上、これまでであったそれぞれの地域と住民の心の垣根を一刻も早く取り払い、真の一体化を実現をしなければならないと考えています。

その一方、これまで5町が育ててきた歴史・文化・自然資産をこれからも大切にしつつ新生鹿児島市の発展の道筋を作り上げなければならないと思います。とはいえ、今後、さまざまな困難や課題が生じてくると思います。その時こそ全市民が一丸となり、信頼で乗り切って解決すべきであると思います。

このたびの合併で新生鹿児島市は人口60万人を超えました。この合併による市民の力に新幹線開業エネルギーを加え、日本の南に鹿児島市ありと誇れるような、また全国から高い評価を受ける情報を発信し続けられるようなまちづくりを目指したいと考えています。



基調講演「市町村合併：よき合併をめざしてすべきこと」

・関西学院大学大学院経済研究科 / 産業研究所教授 小西砂千夫氏

新生鹿児島市誕生おめでとうございます。それと同時に5町の関係者の方々の断腸の思いで合併を決断されたことと、そして5町を受け入れた鹿児島市の懐の深さに心より敬意を表します。

当合併は、南日本新聞の記事から、平たんな合併の道ではなかったことがうかがい知れます。特に失職する5町の特別職は、自ら失職の道を選び、歴史を乗り越えて新しい地域をつくっていく使命感で、わが身を捨てて得るものがあると信じ、潔く去っていくことで新しい市をつくり上げていく姿が掲載されていました。また住民は、ごみの分別方法が変わったり、水道料や税金が上がったりすることが気がかりなどのコメントが寄せられて、合併に対する素朴な気持ちが伝わってきました。

合併を結婚に例えれば、迎える側と嫁ぐ側では意識が変わってきます。迎える側は歓喜の念でいっぱいですが、嫁ぐ側はうれしさの半面、不安を感じずにいられないはずです。心細さを乗り越えて一つの家族になるには相当の時間が必要です。そのようにして家族は代々続いていくものであって、良さも悪さもすべて受け入れなければならないと思います。

旧5町の住民にとって鹿児島市を信じて合併したが、対応の悪さが気になる状況が今後発生するかもしれません。その場合、鹿児島市は手間を惜しまず丁寧に対応する必要があります。合併記念式典で、新市の赤崎初代市長は「地域の一体化を速やかに成し遂げたい。今日をスタートに地域と心の垣根をすべてなくし混然一体となり新生鹿児島市躍進に向け総力を結集したい」とあいさつさ



れました。相互理解には相当の時間を要するのは間違いありませんが、双方が少しずつ歩み寄ることで必ず達成されるものと信じています。

昨今の経済状況を見ますと、実にまれな事例ですが、鹿児島市の財政状況は極めて健全です。現在、日本は財政難であり、歳入が減少している状況で普通の財政運営であれば悪くなるのは当然です。経済状態が右肩上がりのときに財政が健全であるのは当然ですが、右肩下がりになればさまざまな苦渋の決断を迫られます。そのため、自治体の長は難題を先送りしたい誘惑にかられます。

財政が深刻でありながら苦渋の決断ができず、組織の方向性が定まらないまま、なんとなく動いている状況にあるのが多くの自治体の実態です。鹿児島市は、当然やるべきことをやったといえますが、自然な合併をする決断や財政難であれば引き締めるなど苦渋の決断ができたこ

とにより、5町が合併に踏み切ったといえます。合併には「良き合併」と「悪しき合併」があります。前者は地域の実態に根ざし、行政組織は一体化し住民の生活実態に合わせ行政区域を引き直す自然な合併です。後者は財政難でとにかく合併し補助金をあてにする合併のことです。

新生鹿児島市にも反対した方もおられますが、よりよい住民行政・地方自治を展開することにより結果で「良き合併」であったと納得していただく以外にありません。行政は合併を分権時代にふさわしい行政体制整備などと説明しますが、住民は実態を伴わない美辞麗句に賛同するわけではなく、生活に密着したごみ分別や税金などに不安を持っています。将来的な展望に対して期待感があり、新しい自治体に夢と希望を持っています。行政側は今以上の努力で住民の期待感にこたえるべきです。

合併の利点として、役所組織の強化が考えられます。役所の規模にかかわらず基本的な仕事の種類と権限はほぼ一定ですが、都市部と町村の職員数は圧倒的に違います。町村の役所は住民との心理的距離は近いですが、法律関係に弱い部分があります。都市部ではその逆の現象が起こりがちです。鹿児島市は合併により両方を手に入れることができました。今後、鹿児島市は5町の役所が住民を見ようとした目線を維持できるかどうかのコミュニティー政策が問われます。



60万都市において住民の目線で行政を行うとすれば、よほど役所の仕事の仕方を変えなければなりません。各自治体において、コミュニティー政策に積極的に取り組むところとそうでないところの二極化が進んでいます。熊本市では、予算編成において予算要求額と査定理由を公開し、住民に対してその説明責任を果たそうとしています。コミュニティー政策とは行政側が住民との接点にどれだけ時間をかけられるか、また住民をどれだけ信頼できるかということだと思います。

一朝一夕にはできないことですが、新生鹿児島市の今後の課題であり必ず達成できるものと信じています。

パネルディスカッション「鹿児島市の将来と私たちの生活を考える」 パネリスト

- | | |
|-------------------------------|--------|
| ・ 関西学院大学大学院経済研究科 / 産業研究所教授 | 小西砂千夫氏 |
| ・ 鹿児島大学法文学部教授 | 宮廻甫允氏 |
| ・ ときめき・らんど はなみずき代表 | 永山恵子氏 |
| ・ 旧松元町行政改革推進委員会委員
コーディネーター | 新山隆志氏 |
| ・ 南日本新聞社論説委員会副委員長 | 日高和広氏 |

日高

県内では薩摩川内市に次いで2番目、県庁所在地としては鳥取市と同じく全国第1号の新鹿児島市の誕生となりましたが、これからが正念場です。新幹線開業や駅ビルオープンなどで鹿児島が元気なときに合併したことで、相乗効果をさらに高める必要があります。合併の成否はわれわれ住民一人ひとりの取り組みにかかっています。きょうは新市のまちづくりの方策を探りたいと思います。まず合併から3週間がたち、どんな実感でしょうか。

永山

鹿児島市に住んでいると合併の実感はさほどないし、生活も変わっていません。私は郡山町川田の盆地で育ちましたが、川田町という町名がつかしました。両親が住んでおり、ごみ分別が変わって戸惑っているようですが、そのうちになじんでいくことでしょう。合併は時代の流れで、生活の転機になると思います。

新山

私が住む旧松元町は鹿児島市に非常に近くて便利な田舎町です。そこで司法書士と農業をしながら一生を終わると思っていましたが、鹿児島市民になりました。松元支所に行くと、職員の数さほど少なくなっていないませんが、収入役室のカーテンが閉められたままで寂しい感じがします。

仕事では、鹿児島市の依頼者の住民票などが松元支所で取れるようになって利便性が向上しました。テレビや新聞で旧松元町と報道されると合併したのだと実感します。今後、水道料などが少し上がりますが、いい部分もあると思います。合併に伴い管轄が変わったものもあります。税務署が伊集院税務署から鹿児島税務署になり、警察署は従来の伊集院警察署のままです。消防署は鹿児島市、警察署は伊集院だと交通事故のときに迷うのではと心配です。



宮廻

合併協議に携わってきて、合併は大変なことだなと実感しました。1972年に鹿児島広域市町村圏が2市14町2村で発足し、1市5町はこれに属して広域行政に取り組んでいます。また編入合併ということもあり、当初はそんなに問題ないと思っていましたが、合併はいろんな条件がかみ合わないとうまくいかないことを痛感しました。

合併協議会は計19回行われ、その中で私は、旧町名を新住所に残したいという喜入、桜島の意見を支持する一方、簡易水道の独立採算には将来の設備投資などを考慮すると市水道局で一本化すべきとの意見を述べました。合併を細かく見ればマイナスもあるが、大事なことは総合的に評価し、全体的に見ることです。それを数字に示すのは難しいのですが、鹿児島市の福祉は断トツに充実している点を取り上げ、全体として合併はプラスになると思って発言してきました。合併はいまスタート地点に立ったばかりで、これから始まるのです。

小西

県庁所在都市の合併は全国第1号と聞いて、言われてみればそうかなと思いました。埼玉、静岡は政令指定都市を目指した合併ですが、生活圏が一緒だからという合併は珍しいようです。周辺の町にとって、人口規模がこんなに違うから合併後の議会に何人の議員を送り込めるかと考えると足がすくむ思いがあるはずです。よほど鹿児島市を信用しきれないとできない合併だと思います。だから信用をいかに大切にするか、合併を機に確実に変わったということを見せ続けることが大事です。

日高

新山さんは農業、商工活動をしており、永山さんはコミュニティー活動に取り組んでいますが、それぞれの立場で不安や問題も感じているのでは。

新山

旧5町としてはスケールメリットが得られ、それが各町にうまく配分されたら一番いいと思います。課題として、旧庁舎の空き部屋の有効利用の問題があります。どのような利用がなされるのか、気になるところです。旧松元町では中心市街地の整備が計画されたものの予算規模が大きいために置き去りにされてきています。

旧5町には松元のお茶、郡山のニガウリ、桜島の大根やミカンなど特色ある農業があります。第1次産業の就業人口は旧5町のうち一番大きいところで25%ですが、新市になると1.5%になり、耕地面積は倍増します。旧5町が特性を生かした農林水産物を助成してブランド化を図ってきたことや旧松元町は零細の商工業者が多く、商工会への補助も必要で、それらがどうなるのか不安な部分もあります。



永山

吉野で平成5年から10年近くミニコミ紙を発行し、個人や活動グループ、生涯学習などを取材してきました。その中で見えてきたのは、みんなそれぞれ一生懸命だけど、いざ何かという時に、グループや団体が連携できるかということです。総合的に地域を見る目を持ったまちづくりの人材育成や、コミュニティー内のグループ同士が連携できる体制や機関、地域のネットワーク化を図れる拠点づくりが必要です。



日高

コミュニティーのあり方についてはどうでしょうか。

小西

鹿児島市では旧5町のエリアで地域まちづくり会議と、さらに鹿児島市全体のまちづくり会議の体制をとり、きめ細かな行政運営をすることです。合併すると行政組織は強化されるが、住民の立場からは自治が薄まるのは合併共通の問題。旧鹿児島市域は55万人と広いので、旧市域も中学校区でまちづくり会議を設置すると、鹿児島市の自治行政が合併を機に変わるようになります。



宮廻

地域まちづくり会議を旧5町につくり、その代表にかごしままちづくり会議にも参加してもらい、新市レベルの話をするということですが、その運営をどうするかは非常に重要です。地域の要望を地域まちづくり会議で集約し、かごしままちづくり会議でどう将来像、具体的施策にしていくかということになると思います。

小西

新市域は1本で、旧5町はそれぞれやるという体制でいつまでやるかという問題が出てきます。60万人は大都市なので、旧市域を細かい地域に分けてそれぞれまちづくり会議を展開するのもひとつのやり方として必要ではないでしょうか。

日高

旧鹿児島市と旧5町の一体化が必要ですが、周辺5町にどんなメリットがあるのでしょうか。

宮廻

各地の特性を生かし、個性的で活力あるまちづくりを通して新しい市として飛躍する必要があります。そのための方策は2つ。ひとつは強みを一層伸ばしていくこと。例えば鹿児島市内の観光もルート観光や旧5町と連結し、付加価値をつけたものを展開できます。もうひとつは弱みを補い合うこと。旧鹿児島市は第3次産業が突出し、第1次産業が0.数%と産業構造上大きな問題を抱えています。



ています。合併を機に農業の比率を上げ、食の安全を重視した周辺部の農業振興に取り組むことで効果が上がります。

新山

旧5町の農業はひとつのブランドとして位置づけされており、これらを鹿児島ブランドとして再認識して伸ばしてもらいたい。

永山

農業をしたい人が、旧5町に移り住むケースが今後増えると思います。旧5町を農業体験、生活体験の場として活用すれば、子どもたちは食べ物ができていく過程も知ることができ、豊かに育つのではないのでしょうか。

日高

地元から歴史、伝統文化を語り継ぐ必要があるという声が強いようです。地域の文化、伝統が合併で失われていく恐れはないのでしょうか。

小西

地域での自主的活動には3つのポイントがあります。ひとつは防災、防犯で、災害や犯罪防止で助け合うのが基本です。その上に豊かさの社会教育があり、それが地域の伝統芸能や祭りなどです。これに地区別の土地利用、計画づくりも欠かせません。

日高

合併を成功させるには、物心両面の一体化を進めないといけませんが、最後に一言ずつ一体化への秘策、心構えをお聞かせください。

新山

旧5町のことを忘れずに広報広聴活動や敷居の低い行政運営をしていただきたい。住民は合併に期待と不安がありますが、合併協議で話し合われたことを実現し、周辺5町の特色を大切な資源と考えたまちづくりを推進していただきたい。

永山

市民が高い意識を持って地域づくりに参画することで、行政サービスを受けるだけでなく、行政のあり方を考えながら何をすべきか、何ができるかを考え、60万都市の市民として一緒に育っていければと思います。

宮廻

まちづくりの基本は市の総合計画と新市まちづくり計画。地域まちづくり会議、かごしままちづくり会議に住民の意見を反映させながら実施計画をつくり、それを各年度の予算に盛り込んでいくことが現実のまちづくりに重要。その時に一体化と地域の個性とのバランスをどうとるかが大切です。

小西

一体化のためには、どちらかに合わせるのではなく、新しくつくることではないと一体化になりません。役所が骨折る覚悟がないと住民の良識は引き出せません。それを新鹿児島市の課題にしてもらいたい。

日高

ある講演で、合併をちらしずしとにぎりずしにたとえていました。同じような取り組みでちらしずしになるか、1個1個が特性を生かしたにぎりずしを目指すのか。鹿児島市の都市機能を高めると同時に周辺5町の持ち味を生かした方向でいくべきだと思います。せっかくの合併も住民の力が出てこないと何にもならないのではないのでしょうか。私たち一人ひとりがこれからの合併の効果なりに目を向けていく必要があると考えます。



(本文は平成16年12月15日付け南日本新聞掲載)